

## 『高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版』を策定

大学生の情報活用能力の向上のために

### 目的・趣旨 |

国立大学図書館協会は、平成 24 年に、大学図書館における教育学習支援機能の充実のため、教育学習支援検討特別委員会を設置しました。3 年間の活動期間を経て、2 つの報告書『ラーニング・コモンズの在り方に関する提言』と、『高等教育のための情報リテラシー基準 2015 年版』を公表しています。

このうち『高等教育のための情報リテラシー基準 2015 年版』（以下、本基準）は、国内外の情報リテラシー基準を参考に、これまでの大学図書館における情報リテラシー教育の実践も踏まえつつ策定したものです。

ここでは、情報リテラシーを、高等教育の学びの場で必要な、課題認識から情報発信にいたるまでの情報活用能力としています。高等教育の場で能動的学習（アクティブ・ラーニング）を進めるためには、汎用的技能としての情報リテラシーが欠かせないと考えられます。また、アクティブ・ラーニングを通じて、学生はその情報リテラシーをより高めていくと考えられます。そのような考えを基に、高等教育の様々な場面で活用されることを期待して、情報リテラシーを身につけた学習者のあるべき情報活用行動プロセスを基準として示しています。

情報活用行動プロセスは、学習目標の設定や評価のツールとして活用しやすいように、行動指標とその具体的な行動を構成要素として示しました。また、本基準を活用する際には、大学等の教育方針や学習者の状況に合わせて適宜カスタマイズしてもらうことを想定しています。

### 実施内容 |

本基準は、学習者が課題に取り組むにあたり情報を活用していくプロセスを、次の 6 つの場面に整理しています。

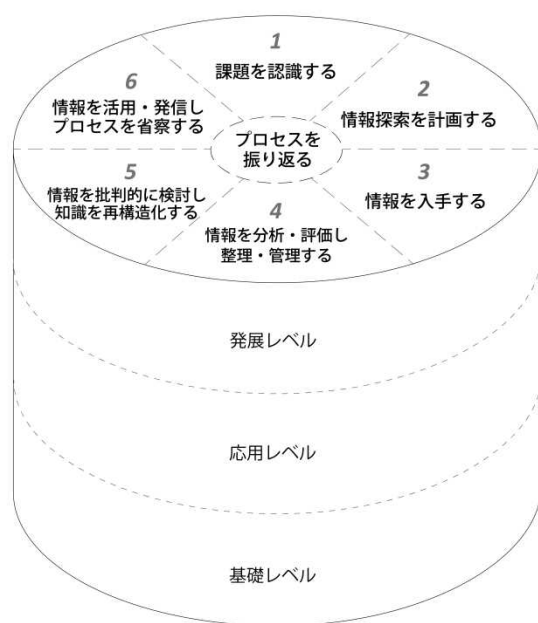
1. 課題を認識する
2. 情報探索を計画する
3. 情報を入手する
4. 情報を分析・評価し、整理・管理する
5. 情報を批判的に検討し、知識を再構造化する
6. 情報を活用・発信し、プロセスを省察する

それぞれの場面で取るべき行動は「行動指標」として、またその達成度を評価する目安となる具体的な行動は「構成要素」として示しています。例えばプロセス 1 は次のとおりです。

1. 課題を認識する  
行動指標 1  
課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める。  
(構成要素)
  - 1.1 自分が取り組むべき課題を識別し、その本質を把握する。
  - 1.2 課題を解決するために必要となる情報を把握する。
  - 1.3 必要となる情報と現時点で持っている情報を比較し、新たに収集すべき情報の範囲を定める。

実際の情報活用は単純なプロセスではなく、学

習者は、6つの場面を後戻りしたり繰り返したりしながら課題解決を進めていくものと考えられます。その試行錯誤の過程で、随時プロセスを振り返り、自己の情報活用行動を適切に調整していくことが必要です。そうした学習者の振り返りを助けるのも、本基準のひとつの役割です。そうした経験を繰り返す中で、基礎的なレベルから次第に高いレベルの能力を身につけることを表わすのが「情報活用行動プロセスの場面とレベル」の図です。



## 実施結果 |

本基準は、まだ活用方法を具体化したり、周知していく段階にあります。

報告書の中では、大学教育の具体的場面で活用できるよう、大学図書館を中心とした教育場面の例として「活用体系表」が示してありますが、そうした具体化の作業がさらに必要です。

活用方法としては、まずは図書館職員が情報リテラシー教育の企画やその成果の評価に利用したり、教員と学習目標を共有するために利用することが考えられます。それに加えて、学生が自らの情報リテラシーがどの程度かを把握したり、教

員がシラバスを作成する場面、あるいは大学経営者によるディプロマポリシーを策定する場面でも利用することが期待されます。

第101回全国図書館大会第2分科会においては、本基準を策定した委員の所属機関での例として、お茶の水女子大学附属図書館からは、講習テキストの点検作業に活用した例、情報リテラシー教育プログラムに関する教員との相談の際の材料とした例が報告されました。また、筑波大学附属図書館からは、本基準の「活用体系表」を自館向けにカスタマイズし「筑波大学附属図書館学習・研究支援体系図」を作成した例、広報資料で活用した例、また講習会参加者のセルフチェック用資料に活用した例などが報告されました。

## 今後の展開・課題 |

教育学習支援検討特別委員会は3年の活動期間を終えましたが、成果の活用を促進するため、期間を1年延長して活動しています。広報や各館での活用事例が共有されるような取り組みを行い、大学教育の場で実際に本基準が使われることをめざしています。

## 参考文献・URL |

- 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会  
<http://www.janul.jp/j/projects/sftl/index.html>
- 国立大学図書館協会・教育学習支援検討特別委員会  
facebook ページ  
<https://www.facebook.com/janulsftl>

## 連絡先 |

教育学習支援検討特別委員会事務局  
(名古屋大学附属図書館情報サービス課)  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
TEL: 052-789-3674